

## 志和君を偲んで

2月9日、携帯に志和から電話が。おかしいな、最近はライン電話なのと思ったら、奥さんからだった。何かあった！その先は共に泣いていて、わからないが、何があったかは分かった。

あれから60年か。八千代台は県が松林を開発して作った最初の住宅団地。なので小学校はほとんどみんな新参者。志和は高円寺のほうから来た。入学する前に彼が弟と公園でキャッチボールをしていて一緒に野球をしたのが最初。彼は4年の編入生。彼、野球上手いんだ。家もうちから5分くらい。よく遊んだ。そばの自衛隊は自由に入れ、我々の絶好の遊び場だった。射撃場があり、そこで砂の中に打ち込まれた弾丸を取ってきて、缶の中に入れて溶かす。鉛が銀色に光りきれいだっただ。それを何に使ったかは忘れた。多分溶けた鉛色がきれいだから？周りが松林だからカブトムシ、クワガタムシもよく取れ、縁台の上で戦わせて遊んだ。

中学校は八千代台になかった。当時両国高校に沢山入学していた市川1中に入学した。彼ともう一人の友人の3人で、私の姉が住んでいた市川に寄留して。彼はバスケット部。隣の和洋女子大の高校生とうらやましくも練習試合をしていた。そうそう、彼は南方系の彫が深い2枚目だけど、村田君の同僚だった奥さん以外の女性のうわさは終生全くなかった。

中学の思い出は、2人ともよく勉強した。中山の私塾で。おかげで二人とも千葉高に入れた。その塾は学年15人くらいで、その年、二人の千葉高生を出したというので有名になったと聞いた。嫌味？行く前に線路わきの焼きそばやでちょっと焦げたそばを食べ、夜遅くまで勉強し、帰りがけに通る細い暗い裏道でよく犬に吠えられた。その犬も我々の教育的指導で卒業のころまでには静かになった。

そして高校。これはもう皆さんのほうがよく知っているかもしれない。彼は帰宅部。志和、川瀬、伊原が1年G組目良クラス。私は川瀬とテニス部で一緒にこの4人がつながり、終生の友となる。伊原は四天王と呼ばれ、口の悪い人は四バカと呼ぶ。

成人式には志和と私は信念のある不参加だったが、川瀬はくそまじめだから出席。その式の終了を待って、志和のカロラで成人記念の千葉一周をした。冬はこの4人でよくスキーに行った。4人の頭文字をとるとKISSだというのでそのロゴを入れたレーサー風のユニフォームを作り、戸隠、八方にちよくちよく行った。志和の練習法は効率。その場でハの字型で登り、10mくらい滑り、また登って滑る練習で

なく、その時は木にもたれて、煙草をふかし待っている。そして我々の練習が一段落して、一気に滑り降りる時が、彼の大好きな練習時間。ただこのユニフォーム、体にぴったりしていてめっぽう寒い。それを動かさずジッと我々の練習を待つ彼は忍耐強い。夏は勝浦から小湊にかけ1泊で伊原を含め、3対3の今でいう合コンに行った。行川アイランド、勝浦の海岸での写真がある。

彼は大学で自動車部だったので車にはめっぽう強い。私の車のファンベルトが切れた時も一人であつという間に直した。よく交通量調査のバイトをしていて、実入りがいいと言っていた。大学4年の3月末、なぜかわからないけれど2人で高円寺まで一緒に行き、お互いの就職先の研修所に道を分かれて歩いた。志し大きくというより、何となく寂しかった。後から話したとき彼もそう思ったと言っていた。学生から社会人への不安か。

自動車が好きだったせいか、就職先は地味な日通だ。彼はそこでも頭角を現した。放射線取扱いの管理者資格を取り、原子力関係の輸送のエキスパートになり、夜間に横断歩道橋を外して、異常に大きい原子力資材を運んだという。それから現金輸送車の総責任者もしていたと思う。北海道では札チョン族で清水君と遊んだようだ。よく知らないけれど、その辺は彼から聞こう。志和君はゴルフがうまかった。どこで覚えたか知らないけれど。多分北海道？それが退職後の我々のつながりをまた深めた。

奇遇だが50歳の時、我々2家族は中学時代の地元、市川に江戸川をはきんで移転してきた。しかも2000年式の白いクラウンも全く同じだった。退職後はよく遊んだ。ほとんど毎日。当時はまだ珍しかったSIMフリーのスマホを使っていかに安く利用するか。本体は2万円、通話、ネット料金は1500円くらいの格安版。

その安く使う方法の情報交換。掃除大作戦もあった。便器は軒部分の見えない下側を洗えとか、風呂のカビ取りにいいメラミンスポンジの活用方法とか。いろいろなことを調べてくる。でもやはり一番打ち込んだのがゴルフ。彼はスキーとは比較できないくらい、練習熱心であり、理論派。よくゴルフの本を買いそれを読みながら、私のフォームを修正してくれた。練習場は朝6時からの割引料金で9時まで打ったり。では本番とって、江戸川河川敷にある9フォールのショートコース、越谷の千葉カントリー。ここは20回は行ったので、1回無料になるほどだった。そのあと、こういうゴルフ教習本があるからとまた見せてくれる。フォームもデジカメで撮り、それをスロー再生して教えてくれる。そんな毎日だったが、申し訳ないと今思うのはサウナ。これもよく行った。市川スパに、矢切の「えがおの湯」に。子供が砂場に持ってゆくような小さな黄色と緑のプラスチックバックにタオルなどのセットを入れて。ちょっと可愛い。7分間95度のサウナに入り、1分間20度

の水風呂。それを3セット。気持ちがよかったが、高血圧の彼には命取りになってしまったか。

彼は料理人。どこで覚えたか。多分これも札チョン時代？毎年伊原の奥さんの無人の実家の竹林の掃除をしていた。掃除なんてものではない。200本くらいの倒竹を切り出してきて、ボンボン燃やす。そのあと疲れ切った体にもかかわらず、スーパーで買って来た食材を料理する。出来合いの食品、食料ではない。それを取り仕切るのは志和料理長。魚を三枚におろすのなんてお手の物。塩のかけ方も堂にしている。肉の味付け、だしの取り方これらも理論的。煮すぎると何とかいう酵素が破壊されるからとか、いろいろ言っているが、私は疲れて空腹なので早く食べたい。飲みながら見ているが、彼の手さばきは見えて飽きない。彼は一生懸命おいしく料理してくれた。ありがとう。

でも最近は会う機会が減ってきた。彼曰く孫。可愛って。娘さん夫婦は、彼の家から5分くらいのところに住む。奥さんを取られたっていうけれど、実は彼の心も孫に取られていた。

彼からの最後のLineは1月25日。「千葉高校の凋落が悲しいね。渋幕や共立だっけ？に完全にトップの座を明け渡したね。各都道府県公立トップ高校の進路実績。[http:.....](http://)」このちょっと前のLineは「兎に角、旨いものもいいね。本八幡で紀州備長炭を使った焼き鳥屋が新装開店した。炭の香りがたまらなくいい。2度も行っちゃった。新年会もそこですか？」でした。最後まで千葉高校を愛し、食べ物を愛していました。

私はいまだにひょっこり彼が現れ「オシノ」って呼ぶ声が聞こえそうな気がして、本当に心にぽっかり穴があいたようで涙します。そんな私に川瀬は「篠原、頑張れっ」って言ってくれる。みんな友達。志和も遠くに行っちゃったけれど、会えないから心の中の友達。しばらく待ってて。今度天国で会ったら、行きそびれた備長炭の焼き鳥で新年会をやろう。

冥福を祈ります。

2020年4月1日  
60年来の友：篠原 剛